

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 実施概要

この全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から実施されています。今年度は7回目の悉皆調査となり、本市では、小学生674名、中学生541名が参加して、平成28年4月19日に調査が行われました。内容としては、国語と算数・数学の教科に関する調査と、学習習慣や生活状況等について尋ねる児童・生徒質問紙調査となっています。

2 学力調査の概要

【全般的な概要】

- 小学校については、国語・算数共に、A問題（主として「知識」に関する問題）・B問題（主として「活用」に関する問題）で、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。調査開始以来、高い学力状況にあります。
- 中学校国語については、A問題・B問題ともに、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。近年の調査結果の推移から、全国と比べほぼ同等の学力水準にあります。数学については、A問題・B問題ともに、平均正答率が全国平均・府平均を上回っており、高い学力状況にあります。
- 今年度中学校では、国語・数学ともにB問題で大きな伸びが見られましたが、全国的な傾向と同様、A問題に比べB問題の正答率が低い状況にありますので、「活用」する力の育成に向けて、引き続き授業改善等に取り組んでいくことが必要であると考えています。

【国語の概要】

- 小学校では、漢字の読み書きや、目的に応じ図と表を関連づけて読むことについてよくできていましたが、ローマ字の記述に関する問題に課題が見られました。B問題では、目的に応じ、資料を基に、分かったことや自分の考えを書くことに課題が見られました。
- 中学校では、A問題で、文章の内容理解がよくできていましたが、文脈に合った適切な語句を選択することに課題が見られました。B問題では、目的に応じて必要な情報を集めたり、根拠を明確にして書いたりすることに課題が見られました。

【算数・数学の概要】

- 小学校では、基本的な知識・技能について良く身につけています、百分率などの意味理解に課題が見られました。B問題では、示された説明を解釈し別の場面に適用する問題や図形の問題、言葉や数を用い理由を記述したり説明したりすることに課題が見られました。
- 中学校では、基本的な計算や図形の基本的な知識についてよくできていました。B問題は、全国的に正答率が低く、中でも必要な情報を取り出し、事柄が成り立つ理由や問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られました。

3 質問紙調査の概要

【生活習慣について】

小・中学校共に、「毎日、朝食を食べる」、「起床・就寝時刻が決まっている」など、基本的な生活習慣が身につけている児童生徒の割合が高くなっていますが、就寝時刻は遅くなっています。また、「ものごとを最

後までやり遂げて、うれしかったことがある」と答えた児童生徒が多く、充実した生活を送っていることがうかがえます。

携帯電話やスマートフォンを持っている割合は、全国と比べて高く、年々上昇しています。また、使用する時間については中学校で長くなっています。

【学習習慣について】

小・中学校共に、家庭学習(宿題)によく取り組んでいます。中学校では、学習時間が30分未満の生徒の割合は減ってきており、良い学習習慣が身につけてきています。また、「読書は好きですか」の質問については、小・中学校共に全国と比べ低い結果となっていますが、「読書が好き」と答える児童・生徒は、少しずつ増えてきています。

【自分自身に関することについて】

「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童・生徒の割合が高く、前向きな意識を持って生活していることがうかがえます。しかし、「自分には良いところがある」と答えた割合や、「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は、全国と比べ小学校・中学校ともに低くなっています。

【地域・社会との関わりについて】

「今すんでいる地域の行事に参加している」と答えた割合は、小学校でたいへん高くなっていますが、中学校では低くなっています。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」や「新聞を読んでいますか」等の質問については、全国の傾向と同じく小・中学校共にあまり高くありません。

【その他】

発表の機会を設けたり、授業のはじめに目標の提示をしたりするなど、授業の改善は見られますが、「国語・算数(数学)は好きですか」の質問に見られる学習への関心は、小・中学校共に、全国と比べ低い結果が出ています。「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問についても、小学校・中学校共に低くなっています。

4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

- 基礎学力の定着を図ると共に、協働的な学習活動を効果的に取り入れ、様々な意見をしっかり聞き、自分の考えを深めまとめて書く力や、根拠を持って分かりやすく説明する力を伸ばす言語活動の充実を進めていきます。
- 家庭学習や読書の時間と学力には、強い相関が見られます。家庭学習に取り組む児童生徒は増えていますが、予習や復習などより良い家庭学習の内容や取り組み方について、更に指導を工夫していきます。家庭におかれましても、帰宅後の時間の使い方について話し合うなど、家庭学習の習慣化に向けご協力をお願いします。
- B問題では、特に情報を取り出し、整理し、活用していく問題に課題が見られました。学校では、本やインターネットを使った調べ学習や、探究的な学習の工夫に引き続き力を入れていきます。
- 読書や学習意欲について課題が見られることから、本に親しむ活動や、分かりやすく楽しい授業・子ども達が主体的に取り組む学習への授業改善を一層進めていきます。

教育委員会では、子どもたちに、学校や家庭・地域の中で、多様な力を身につけ大きく成長していったほしいと考えています。本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、児童生徒一人一人の学びを充実させ、「生きる力」を育むために、調査結果を有効に活用し、一層の学力充実に向け努力してまいります。

保護者をはじめ、市民の皆様の一層のご理解、ご協力をお願いします。